

2025年度 主な取り組み

— 御同朋の社会をめざす運動 —

2025年度は、「御同朋の社会をめざす運動」のもと、
人権・平和・いのち・次世代育成を柱として、多様な実践を重ねました。
戦後80年という節目を機縁に非戦・平和への取り組みを展開し、
また、各組の主体的実践を支える仕組みづくりを進めました。
教区重点プロジェクトは具体化に課題を残したものの、
研修会の開催、追悼法要の勤修、子ども・若者とのご縁づくりなど、
確かな歩みを重ねる一年となりました。

非戦・平和への取り組み

- ・戦後80年全戦没者追悼法要の勤修
- ・戦後80年講演会の開催
- ・沖縄戦DVDを各組へ配布
- ・各組での学習機会創出を支援

戦後80年事業

戦後80年事業

人権・差別問題への取り組み

- ・人権啓発推進研修会（同朋講座）
僧侶・寺族部門 22組395名
一般部門 19組794名
- ・近畿同朋運動推進協議会事業への参画
- ・ハンセン病問題現地研修実施



年間研修参加者数：約1200名

人材育成・次世代支援

- ・連研修了者大会開催
- ・組連研の推進（開催23組）
- ・子ども・若者ご縁づくり事業の展開
- ・モルック大会
- ・クリーンキャンペーン実施



交流事業の様子

次年度は「つなげて広げる」

本年度に育まれた一つひとつのご縁を、
確かな歩みへと結び直し、
各組・各寺院の実践を支え合いながら、
学びを行動へ、理念を具体へと深化させてまいります。

御同朋の社会の実現に向け、
歩みを止めることなく、
静かに、着実に歩みを重ねてまいります。

2025 年度「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」 事業報告

第 1 章

■「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」教区委員会

1. 教区重点プロジェクト

（1）〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉— 子どもたちを育むために —
社会変化に伴う核家族化や孤立の進行を背景に、子どもの居場所づくりを寺院が担うことを目標に掲げた。

2025 年度は、

- ・スローガン「おいで、おいで、お寺においで！」の提示
- ・寺院施設（本堂・庫裡・会館等）の活用可能性の検討
- ・子どもが一定時間安心して過ごせる空間づくりの方向性の共有

を目標として掲げた。

なお、教区としての具体的事業実施には至らなかったが、課題意識の共有と方向性の確認を行った。今後は体制整備および具体化が求められる。

（2）立教開宗 800 年を契機に浄土真宗の未来を探る

10 年後・20 年後の僧侶像・寺院像を見据え、寺院活動の現状把握と課題整理を目標とした。

2025 年度は、

- ・法要・法座開催状況の変化に関する情報共有
- ・仏事の形骸化への対応の方向性検討

を掲げたが、教区として具体的事業実施には至らなかった。

今後、実態調査や成功事例の収集を含め、具体的検討を進める必要がある。

2. 組重点プロジェクト

11組より取り組み報告があった。

参加人数：544人。

持続可能な寺院活動、平和学習、門信徒との学び、過疎問題、子ども支援、フードバンク支援など、多様なテーマで実践が行われた。

各組が地域課題を自らの問題として受け止め主体的に取り組んでいる点は、本運動の大きな意義である。一方で、教区としてその実践を横断的に共有し、支援へとつなげる仕組みについて、今後も検討が必要である。

3. 人権啓発推進研修会（同朋講座）

僧侶・寺族部門：22組（395人）

一般部門：19組（794人）

全組開催には至っていないが、多くの組で継続的に実施されている。

また、開催報告書式の簡略化やメール提出の導入により事務負担軽減を図り、継続しやすい体制づくりを進めた。

4. 御同朋の社会をめざす運動研修会の開催

第1回

- ・期日：6月27日
- ・講師：赤松徹真氏（本願寺史料研究所所長）
- ・講題：「ジェンダー平等推進に向けて ～自分ごととして～」
- ・参加：27人

第2回

- ・期日：2月17日
- ・講師：直海玄哲氏（同和教育振興会評議員）
- ・講題：戦後80年にあたって
- ・参加：60人

教区として継続的な学習機会の提供を行うことができた。

5. 「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」専用ページの開設

神戸別院ホームページ内に専用ページを開設し、2017年度～2025年度計画書を掲載した。

また、

- ・人権啓発推進研修会（同朋講座）要項
- ・同朋講座 開催報告書式
- ・組重点プロジェクト関係書式

をダウンロード可能とし、情報共有体制の整備を図った。

情報の一元化は、今後の運動推進を支える取り組みの一つである。

6. 会議の開催

教区委員会：2回

常任委員会：3回

7. 総括

本年度は、教区重点プロジェクトの具体化には至らなかった部分もあるが、組単位での実践は着実に進められている。

教区としては、理念提示にとどまることなく、各組の実践を支援・共有し、具体的な行動へと結実させる体制整備を進めることが、今後の課題である。

第2章

■ 人権・差別問題への取り組み

1. 近畿同朋運動推進協議会関係

本年度は、近畿同朋運動推進協議会の諸事業に参画し、会員への参加奨励および研修機会の提供に努めた。

(1) 第 65 回総会・会員研修会

期日：6 月 24 日

講師：赤松徹眞氏（本願寺史料研究所所長）

講題：「ジェンダー平等推進に向かって—自分事として—」

参加：13 名

(2) 寺院女性研修会

期日：10 月 17 日

講師：上川多美氏（BURAKU HERITAGE メンバー）

講題：「部落問題を通して考える日常の中の差別」

参加：15 名

(3) 会員研修会

期日：2 月 20 日

講師：小武正教氏（念仏者九条の会 共同代表兼事務局長）

講題：「戦後 80 年 今、新たな戦前」

昨年度、兵庫教区が担当教区として勤めた創立 70 周年記念大会の記録集・ブックレットが本年度作成された。広報部会では例年通り標語ポスター等の作成を行い、研修部会では各種研修会への参加奨励を継続した。

2. 同和問題に関する諸取り組み

(1) 兵庫県宗教教団連絡会議

人権啓発研究第 45 回兵庫県集会（10 月 25 日）をはじめ、各種研修・学習会への参加および周知を行った。教務所長をはじめ常任委員が各行事に参加し、人権課題への理解深化に努めた。

(2) 岡山県宗教教団連絡会議

第 42 回岡山県同宗連総会資料掲載および分担金支出を行うとともに、関係寺院へ研修会案内・参加奨励を行った。

(3) 同和教育振興会

月例研究会会費を納入し、年間を通じて各種研修・講座の情報を受領。教化活動に資する情報収集と研鑽機会の確保を継続した。

第3章

■ 非戦・平和推進の取り組み

1. 戦後80年事業

戦後80年を迎えるにあたり、改めて平和について考える機会の創出を目的として、委員会を複数回開催し（5月8日、8月5日、10月9日、10月28日、1月26日）、追悼法要および研修事業の検討を行った。

2. 組への働きかけ

12月10日、「戦後80年平和貢献策の展開に関する教区実行委員会」を開催し、各組において戦後80年を機縁とする学習・研修会の開催を依頼した。

その具体策として、映画「ドキュメンタリー沖縄戦」DVDを各組へ配布した（購入済み組を除く）。購入費および発送費は教務所負担とし、各組での自主的学習開催を支援する体制を整えた。

理念提示にとどまらず、具体的教材を通して学習機会を促したことは本年度の特徴的な取り組みである。

3. 戦後80年全戦没者追悼法要

期日：11月28日

会場：神戸別院本堂

参拝：約30名

追悼法要（阿弥陀経作法）を勤修し、法話（近藤龍樹師）および非戦・平和パネル展示を実施した。

宗派からの要請もあり、兵庫教区主催として初の戦没者追悼法要を勤修した。準備面に課題は残ったものの、戦後80年を機縁に教区として非戦・平和に向き合う姿勢を明確に示す機会となった。

4. 戦後 80 年講演会

期日：2月27日

会場：神戸別院本堂

講師：箕牧智之氏

講題：「原爆被害とその後の人生」

被爆体験と平和活動の歩みを通して、核兵器廃絶と平和の尊さを学ぶ機会となった

5. 成果と課題

戦後 80 年という節目を契機に、教区主催の追悼法要を実施するとともに、各組に具体的教材を提供し、学習機会の創出を図ることができた。

一方、準備体制の整備および継続的な取り組みの構築については課題が残る。単年度事業にとどめず、組単位での学習状況を把握しながら、継続的な学習機会の確立が求められる。

第 4 章

■ ハンセン病問題・自死問題への取り組み

1. ハンセン病問題への取り組み

長島愛生園・邑久光明園入所者交流会を実施した。

・期日：1月19日

・内容：現地研修（清掃・交流会・でんしょう愛生館見学）

・参加：6名

現地での清掃および交流を通して、歴史と向き合い、継続的な関係性を築く機会となった。

また、長島愛生園・邑久光明園における宗教関係行事の今後の展望について検討を行い、真宗同朋会降誕会・報恩講への参拝奨励および現地研修の在り方について引き続き協議を重ねていく。

2. 自死問題への取り組み

(自死者追悼法要実行委員会)

本年度は、委員会を開催(9月2日)し、計画に基づき以下の事業を実施した。

(1) 人材養成

- ・スタッフ養成研修会

期日：12月18日

講師：河合宗徹氏(自死に向き合う関西僧侶の会 副代表)

参加：10名

- ・自死者追悼法要リハーサル

期日：2月12日

参加：14名

自死問題に向き合う担い手の育成と、法要運営体制の充実を図った。

(2) 公開講座

- ・自死問題公開講座

期日：11月14日

講師：関本和弘氏(自死に向き合う関西僧侶の会代表)

参加：10名

自死問題について考える学びの機会を提供した。

(3) 自死者追悼法要

期日：3月7日

例年2月に勤修しているが、本年度は日程を調整し3月実施とした。

3. 成果と課題

概ね事業計画に基づき活動を実施することができた。一方、法要実施にあたるスタッフが固定化している現状があり、引き続き研修会への参加を呼びかけ、新たな担い手の育成を図る必要がある。

第5章

■ いのちの尊さの継承と災害対応体制の整備

1. 1.17「いのち」を考える研修会

(別院追悼法要関連事業)

期日：1月17日

講師：三代目 桂春蝶師

講題：「ニライカナイで逢いましょう～ひめゆり学徒隊秘抄録」

参加：90名

本研修会は、阪神・淡路大震災物故者総追悼法要の趣旨を広く伝える機縁として実施している。戦争体験と震災の記憶を重ね合わせながら、いのちの尊さと平和の意義を学ぶ機会となった。講師の知名度を活かし、一定の関心喚起につながった。一方、若年層を含む継続的参加の仕組みづくりが今後の課題である。

あわせて、宗門関係学校を対象に「震災・いのち」に関する作文を募集し、5校より応募があった。

【参加校】

- ・神戸龍谷中学校
- ・神戸龍谷高等学校
- ・神戸国際中学校
- ・兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校
- ・兵庫大学

入選5名（うち2名が当日朗読発表）。

被災経験のない世代が震災と向き合い、「いのち」を自らの言葉で語る場を創出できたことは大きな成果である。

2. 災害対応・安否確認体制の整備

セコムによる安否確認体制はすでに終了しており、現在はコミュニメールを活用した体制整備を進めている。

【登録状況】

教区内 760 寺院中、住職代務 115 寺院を除く 645 寺院が対象
現在 438 寺院が登録済み（約 68%）

登録未完了寺院への周知・働きかけが引き続き課題である。

また、教務所に備える災害対策備蓄品として、アルファ米等の保存食品を購入し、ローリングストック方式による管理を行っている。

阪神・淡路大震災を経験した教区として、平時からの備えを具体的に積み重ねていくことが重要であり、今後も計画的な体制整備を継続していく。

第 6 章

■ 連研委員会

1. 委員会開催

4月3日

1月27日

2. 第 22 回連研修了者大会

期日：7月13日

会場：神戸別院本堂

講演：中川大城氏（連研中央講師）

上映：「門徒推進員中央教習のすすめ」

演奏：深親亮介氏（雅楽奏者）

参加：組連研修了者 41 名

門徒推進員 22 名

僧侶 28 名

3. 連研のための研究会

期 日：3月24日（開催予定）

講 師：棚原正智師

テーマ：「仏教から見た非戦・平和」

4. 組連研の推進

報告組：9組（神戸東・播磨東・高砂・神崎・神姫・網干・揖龍西・朝来・岡山南）

その他14組が開催中

全組開催を目指し、未開催・休止組への働きかけを継続している。

5. 成果と課題

活動は再開・回復傾向にある。一方、話し合い法座の実施が十分でないとの指摘もあり、その意義と魅力を研究会等を通じて改めて発信していく必要がある。

第7章

■ 宗門関係学校への布教使派遣

教区として宗門関係学校と連携し、生徒・学生が仏法に触れる機会の充実を図るため、布教使の派遣を行った。

- ・神戸龍谷中学校・高等学校 朝礼法話（16回分）
- ・兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校 月例礼拝（3回分）

学校の教育活動の中で継続的に法話の機会を確保することができた。

第8章

■ 子ども・若者ご縁づくり推進の取り組み

(子ども・若者ご縁づくり推進委員会)

1. 活動の基本方針

本年度は「手を合わせ お念仏喜ぶ ご縁づくりを！」を活動テーマとし、すべての子ども・若者が阿弥陀さまのご縁に会い、お寺を「居場所」と感じられる環境づくりを目指して活動を展開した。慶讃法要を機縁とする流れを継続し、教区内におけるご縁づくり活動の推進と活性化に努めた。

2. 主な事業内容

(1) 各組サポーターとの連携強化

- ・サポーター研修会（少年連盟指導者研修会併催）

講 師：やないあつ子氏

テーマ：「あなたも今日からプチふくわじゅつ師」

- ・若者向け研修会（モルック大会）

10月19日：23チーム（74名） 2月23日：24チーム（74名）

スポーツを通じて自然な交流が生まれ、寺院への親近感を高める機会となった。

- ・クリーンキャンペーン（神戸別院周辺）

12月14日：23名参加

地域清掃活動を通じ、社会参加と仏教的実践を結びつける取り組みとなった。

(2) 各組への奨励

「子ども・若者ご縁づくり（キッズサンガ）」開催組：12組

教区内での開催拡大に向け、継続的な働きかけを行った。

(3) 教化団体との連携

- ・震災支援「報恩講子どものつどい」
185名参加

大規模事業への参画により、多世代交流の機会を創出した。

- ・仏教青年連盟研修会「学びと笑い」
教区仏婦「仏婦の集い」併催
2月22日開催（参加者数集計中）

学びと親しみやすさを併せ持つ企画として、若年層への接点形成を図った。

(4) 寺院子弟の育成

- ・TERA mates Fes (19名)

寺院子弟同士の横のつながりを育む機会となり、将来的な担い手育成の一步となった。

(5) 啓発資料

活動推進リーフレット3,000部を作成し、各組サポーターへ配布。情報共有体制の強化を図った。

3. 成果と今後の方向性

本年度は概ね計画通り事業を実施し、宗門関係学校生徒の参加も増加するなど、新たなご縁が確実に広がりつつある。スポーツや地域活動を通じた参加型企画が若年層との接点形成に有効であることが確認できた。

一方、各組での開催拡大と継続的担い手育成が引き続き課題である。宗派推進室の閉鎖という状況変化はあるものの、教区として推進体制を維持し、各教化団体と連携しながら活動を継続していく。

第9章

■ 地域課題への取り組み

過疎地域に所在する寺院への相談対応や助言、活動支援を行うため、寺院振興対策委員会設置規則に過疎対応担当委員が新たに位置づけられた。教区ではこれまでも過疎への対応を検討してきたものの、継続的に実施できる施策の確立には至っていないのが現状である。今後は、宗派全体での情報共有を踏まえつつ、他教区の取り組みや実践例を収集し、教区として継続可能な施策を見出すことに努める。体制整備が進んだことは一歩前進であるが、実効性ある支援策の構築には引き続き検討が必要である。

第10章

■ 文書伝道・情報発信

教区ホームページにおいて、寺院向け寺務情報および門信徒向け案内を継続掲載し、一定の情報提供体制を維持した。あわせて、教区報第223号～第225号を計画通り発行し、教区内外への情報発信に努めた。

また、季刊リーフレット（お盆・報恩講・春彼岸）を計画通り発行した。

- ・お盆号 執筆：赤松普宣師（2,800部頒布）
- ・報恩講号 執筆：正親智隆師（2,300部頒布）
- ・春彼岸号 執筆：谷川洋子師

紙媒体による継続的な情報発信を通じ、門信徒への教化資料の提供と、教区内での情報共有に努めた。今後も、限られた体制の中で、内容の充実と発信方法の工夫を重ねていきたい。

2026年度「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」 事業計画

第1章 教区重点プロジェクト（第5期計画3年目）

2026年度は、第5期（2024～2027）実践目標の3年目にあたる。本年度は、これまで2年間の取り組みを整理し、実践状況の整理および事例共有の機会を設け、教区内での情報循環を図る。理念の深化と現場の実態を結びつけ、無理のない持続可能な推進体制の確立を目指す。

1. 〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉 — 子どもたちを育むために —

- ・スローガン「おいで、おいで、お寺においで！」
- ・2年間の活動を見直し、さらに必要な対応を進める。
- ・お寺で取り組む「子どもと一緒に過ごせる居場所（スペース）」づくり、本堂、庫裡、会館等の部屋の提供（寺院施設の開放）
- ・各組織の協力と実働

2. 立教開宗800年を契機に浄土真宗の未来を探る

実態の聞き取り調査による成功例の紹介並びに具体的な取り組みの集約

- ・法要法座の開催状況や開催方法の成功例の紹介
- ・仏事の形骸化への具体的な取り組みの集約

第2章 人権・差別問題への取り組み

- ・人権啓発推進研修会（同朋講座）の継続実施
- ・近畿同朋運動推進協議会との連携強化
- ・ハンセン病問題に関する現地研修・啓発継続

第3章 非戦・平和推進の取り組み

- ・戦後 80 年事業の継続的展開
- ・沖縄戦 DVD の活用促進および学習支援
- ・教区主催研修会の継続開催
- ・非戦・平和の意識醸成のための学習機会の確保

第4章 いのちの尊さの継承と災害対応体制の整備

(1) いのちに寄り添う取り組み

- ・1.17「いのち」を考える研修会の実施
- ・自死者追悼法要の安定的実施
- ・自死者追悼法要スタッフ養成研修会の継続開催と担い手の裾野拡大と体制強化

(2) 災害対応・安否確認体制の整備

- ・コミュメール登録率向上への働きかけ
- ・安否確認体制の整備強化
- ・教務所備蓄品の計画的整備およびローリングストック管理

第5章 連研の推進（人材育成）

- ・組連研の全組開催を目指す
- ・門徒推進員養成体制の充実
- ・連研のための研究会の継続実施
- ・話し合い法座の意義の再確認と普及

第6章 子ども・若者ご縁づくり推進の取り組み

- ・交流企画・体験型事業の継続実施
- ・各組でのキッズサンガ開催促進
- ・教化団体との連携強化
- ・若年層との継続的接点形成

第7章 宗門関係学校との連携

宗門関係学校との連携を継続し、生徒・学生が仏法に触れる機会を確保する。

- ・神戸龍谷中学校・高等学校 朝礼法話の継続
- ・兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校 月例礼拝の継続
- ・学校現場との連携体制の維持・発展

第8章 地域課題への対応

- ・過疎地域寺院への支援体制の検討継続
- ・事例収集と情報共有
- ・実情に即した現実的施策の模索

第9章 文書伝道・情報発信

- ・教区ホームページの充実
- ・実践運動専用ページの更新
- ・教区新報とリーフレットの継続発行
- ・わかりやすい情報提供の工夫

2025 年度 兵庫教区実践運動 各組重点プロジェクト取組事例

—御同朋の社会をめざす運動（実践運動）兵庫教区委員会—

はじめに

本資料は、各組で実施された重点プロジェクトの取り組みを共有し、今後の実践運動の参考としていただくことを目的として作成したものです。

各組においては、それぞれの地域事情や課題に応じて、多様な取り組みが行われています。本資料を通して他組の実践事例を知り、それぞれの地域における活動のヒントとしていただければ幸いです。

兵庫教区 各組重点プロジェクト達成目標

組 名	達成目標
1 阪神東組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ —子どもたちを育むために— 「世界平和のためのお布施」 ①貧困問題や子どもたちの問題等に関わる活動を行っている団体との情報共有・ネットワーク作り ②重点プロジェクトに関する情報共有・発信にも活用可能な、時代に即した組内のウェブ環境の整備・拡充
2 阪神南組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ —子どもたちを育むために— ①心の貧困について問題提起 実践目標(2)：これからの浄土真宗はどうあゆむべきか ～地域社会の人とお寺～
3 阪神西組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ —子どもたちを育むために— 貧困問題についての学びを深め、共に出来ることを考え実践していく（SDG s） 実践目標(2)：御同朋の社会の実現 一人一人が大切にされる社会、一人一人が大切に作る社会の実現
4 阪神北組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ —子どもたちを育むために— 貧困問題についての学び 現状の理解と寺院の役割
5 神戸東組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ —子どもたちを育むために— 常にわがみをふりかえる阿弥陀如来のお心を鏡とする ①災害支援：被災体験からともに歩む ②僧侶の意識改革：イノベーション、今こそ ③キッズサンガ：お寺から子どもの声がする
6 神戸中組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ —子どもたちを育むために—

		<p>貧困は金銭的なものに限らず孤独等の心の貧困もある、その子どもたちの為に、お寺のみならず地域で取り組む</p> <p>実践目標(2)：災害における寺院の活用について</p>
7	神戸湊組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>①戦後 80 年を迎える新たな歩みを組内・各寺院で</p>
8	神戸西組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>①お寺おやつクラブ（ワンコインそえて）</p>
9	北 摂組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>①地域の貧困家庭への支援、及び地域のつながりの強化</p> <p>実践目標(2)：寺院と門徒さんとの結びつき強化、及びそれに伴う災害義援金活動</p> <p>②寺院住職だけでなく門徒さんを交えた活動を行う</p>
10	神 明組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>実践目標(2)：御同朋の社会の実現</p>
11	淡 路組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>① 貧困問題についての学びを深める</p> <p>② 組内における貧困の状況と寺院及門徒の活動状況の把握に努める</p> <p>実践目標(2)：いのちに寄り添う傾聴のこころを大切にする</p> <p>①平和・環境・人権等、いのちに関わる諸問題の学びを深める</p> <p>②組、寺院、門徒の諸問題における傾聴のこころを大切にする</p>
12	播磨東組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>①国内では、「子ども達を育む為に何が必要か」の観点から『子どもの安全・安心の確保』に重点を置き、『人の目の垣根隊』として子ども達の登下校に寄り添う</p> <p>②国外では、NPO 法人ラリグラス『ネパール支援』に協力し、ネパール・カトマンズ「就学支援部金」を各総会・研修会時に呼びかける。又、各寺院に於いても参拝者に協力を願う</p>
13	播磨中組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>①実践目標について、組内僧侶・門信徒に周知し、組として取り組むべき課題を検討する。</p> <p>②組の行事においてワンコインダーナを実施する。</p> <p>③キッズサンガの継続実施とともに、実践目標との関連を強化する内容を検討する。</p>
14	多 可組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>各種行事等において貧困対策募金活動をする</p> <p>実践目標(2)：寺院の活性化</p> <p>門徒戸数の減る中、お参りを増やす</p>
15	加古川組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>①持続可能な寺院活動の実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●貧困問題について学ぶ ●子どもの居場所づくりーキッズサンガの開催ー

		<ul style="list-style-type: none"> ●人口縮小時代の寺院活動を考える ②御同朋の社会の実現に向けて ●人権問題への学びを考える ●自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現
16	高 砂組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <ul style="list-style-type: none"> ①貧困問題の学びを深めるための学習会の開催 ②お寺で取り組む「子どもの居場所（スペース）」づくり ① 市内子ども食堂の実態把握 <p>実践目標(2)：防災、災害時の支援整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 防災、災害時の支援のための組単独の見舞金支給制度を充実させる <p>実践目標(3)：新たにご縁を頂く門信徒、従前からの門信徒への正しい伝道のための啓発パンフレットを発行する</p> <ul style="list-style-type: none"> ①啓発パンフレットの素案を検討し発行する
17	神 崎組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <ul style="list-style-type: none"> ①貧困問題について学びを深めるための学習会 ②貧困問題にかかわる宗教者としての実践運動 ③子どもたちを育むために「子ども・若者ご縁づくり」活動の推進
18	神 姫組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>出来る事から始めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ①貧困の現状を知る ②ホームレスへの支援の具体的取り組み
19	姫路東組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>社会変化に伴い生活の個・孤人化が進むなか、子どもをはじめとする弱者への目配りやその場所づくりをお寺が中心となって行っていくために、学びから準備・実践へと推進していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ①そもそも「貧困問題」とは？「お寺」に何ができるのか？ ②「お寺」で取り組む「子ども（弱者）たちの居場所」づくり ③「居場所」案内の作成と実働及び掲示伝道による啓発活動
20	姫路南組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p>
21	姫路中組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p>
22	姫路西組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>組活動の立て直しと活性化（組内全寺院の参画をめぐりして）コロナウイルス感染拡大に伴い中止等余儀なくされた活動の再開と従前の活動より更なる飛躍をめぐりして</p>
23	網 干組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p> <p>全寺院参加で協力し合える組活動推進</p> <p>実践目標(2)：組内寺院の協力関係強化 組活動推進</p>
24	揖龍東組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために–</p>

		<p>実践目標(2)：立教開宗 800 年を契機に浄土真宗の未来を探る 立教開宗 800 年を契機に 10 年後 20 年後の僧侶像寺院像を模索する。</p>
25	揖龍西組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために– 実践目標(2)：三部会による活気ある寺院活動の実施 ①社会対応部・活動テーマ【いのちの尊さにめざめる】 ②門徒推進部・活動テーマ【人材育成に取り組む】 ③寺院活性部・活動テーマ【子ども若者ご縁づくり】</p>
26	新 宮組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために– 近隣の子も達への支援活動を調査し、協力できることを具体化し、寺院として継続支援できる方策を実線する</p>
27	赤穂南組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために– ①子どもたちの笑顔のための募金への募金活動 ②学習会・研修会の実施 ③子どもたちが楽しめる催しの実施</p>
28	赤穂北組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために– 実践目標(2)：親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年を機縁として浄土真宗の明日を考える 深まるご縁を</p>
29	宍 粟組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために– ①子ども居場所作り 実践目標(2)：葬送儀礼 ①葬儀の本質が見失われつつあるなか、葬儀が仏法と出会うご縁を進める 実践目標(3)：聞法のつどい ①門信徒の皆様にご縁を深める法座の開催</p>
30	佐 用組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために– ①貧困問題についての学びを深める ②組内寺院での貧困問題についての取り組みをとりまとめ、検討を加えて、以後の組活動へつなげる。 ③フードバンク・フードドライブ・子ども食堂への協賛 ④さまざまな差別事象を通して学習を深める。 ⑤災害対応、災害支援活動</p>
31	多 紀組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために– 実践目標(2)：多紀組 御同朋の集いを実施</p>
32	氷上東組	<p>実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ –子どもたちを育むために– 丹波市内から貧困の克服に取り組む ※保護司・民生委員との連携しパイプ役を担う 実践目標(2)：障害者支援施設と連携を図り、施設が起案するフェスティバル等に積極的に寺院や門徒が関わる</p>

		自他共に周辺地域の社会意識の偏見を取り除く事により、互いに支え合って共に生きていく
33	氷上西組	実践目標(2)：同朋講座の開催 実践目標(3)：お寺の垣根を越えて子どもたちを育む（キッズサンガの実施） 実践目標(4)：門徒戸数の減る中、過疎地における寺院のあり方
34	朝 来組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ -子どもたちを育むために- 社会変化に伴い弱者であるこどもの居場所がなくなってきている。そんなこども達の居場所をお寺提供する
35	養 父組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ -子どもたちを育むために- ①住職研修、総代等研修、坊守等研修を再開し、重点プロジェクトを推進する ②ネットを利用した組内の連絡手段を作る
36	出 石組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ -子どもたちを育むために- 実践目標(2)：過疎化における持続可能な寺院を考える研修会 現状把握と危機意識の共有
37	城 崎組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ -子どもたちを育むために- ①「貧困の克服に向けて」という課題に対して積極的な取り組みを実施する ②合同研修会を開催し僧侶・門信徒が意義と課題を共有し教化伝道に努める
38	岡山南組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ -子どもたちを育むために- 子ども食堂の活動に参加協力することによって、子どもの貧困問題についての知識を得るとともに、貧困問題を抱える家庭への具体的対策を行う
39	岡山北組	実践目標(1)：貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ -子どもたちを育むために- ①貧困問題についての学びを深める ②子ども達のための募金活動および組内フードバンクへの寄付

各組の取り組み

1 神戸湊組

平和について学ぶ講演会の開催

戦後 80 年を迎える年にあたり、平和について考える学びの場として講演会を開催し、神戸別院を会場に講師を招き、被爆体験や平和への願いについての講演を聞いた。組内寺院の住職や寺族などが参加し、戦争や平和の問題について理解を深めた。

2 神明組

「子どもたちの笑顔のために募金」への協力

社会問題に目を向けた取り組みの一環として、「子どもたちの笑顔のために募金」への協力を行った。組内研修会の場に募金箱を設置し、参加者の協力のもと募金を募った。集まった募金は、「子どもたちの笑顔のために募金」として寄付した。

3 播磨東組

子ども食堂支援の取り組み

子ども支援活動の一環として、組内寺院と協力して子ども食堂支援のための募金活動に取り組んだ。昨年度までの海外支援に代わり、地域の子ども食堂を支える取り組みとして実施した。組内寺院や教区団体の協力のもと募金を行い、子ども食堂への支援を行った。

4 加古川組

子ども食堂について学ぶ研修会の開催

子ども支援活動の一環として、子ども食堂の現状や課題について学ぶ研修会を開催した。講師を招き、子ども食堂の取り組みや地域における支援のあり方について話を聞いた。研修には組内寺院の住職・寺族などが参加し、子ども支援の現状について理解を深めた。

5 姫路西組

組活動の再活性化に向けた学びの場

組活動の再活性化を目的として研修会を開催し、実践運動の基本的な考え方について学習を行った。研修では、全国の各組・各寺院の取り組みについて学びを深め、組としての活動の方向性について話し合いを行った。

6 赤穂南組

募金活動と平和学習の取り組み

子どもたちの笑顔のための募金の取り組みとして、寺院に募金箱を設置し、年間を通して募金活動を行った。集まった募金は宗派へ送金され、支援活動に活用された。また、門信徒を対象に平和をテーマとした映画上映会を開催し、非戦・平和問題について考える学習の機会を設けた。

7 宍粟組

聞法のつどいの開催

重点プロジェクトとして「聞法のつどい」を開催し、組内寺院が協力して聞法の場を設けた。当日は、組内法中によるお勤めに続き、法話と仏教讃歌を通して仏法にふれる機会とした。多くの門信徒が参加し、仏法を聞くご縁をともにする場となった。

8 養父組

住職・総代・坊守研修の再開

住職研修、総代研修、坊守研修を再開し、組としての学びの機会を設けた。研修では実践運動の趣旨の

学習や法話などを通して、僧侶・寺族・門信徒がともに学ぶ機会となった。また、LINE を活用した組内連絡体制を整備し、組内寺院の情報共有を進めている。

9 出石組

過疎地域寺院の課題を学ぶ研修会

宗派寺院活動支援部の職員を講師に迎え、過疎地域における寺院活動の現状について学ぶ研修会を開催した。研修では、宗門の過疎対策や寺院支援制度などについて説明を受け、組内寺院で理解を深めた。研修は対面とオンラインを併用して実施され、組内寺院が参加し、過疎地域寺院の課題を共有する機会となった。

10 岡山南組

子ども食堂支援の取り組み

子ども支援活動の一環として、地域で長年活動されている「うのっこ食堂」の取り組みについて学ぶ研修会を開催した。研修では、子ども食堂の活動内容や支援の現状について説明を受け、寺院としてどのような支援が可能かについて意見交換を行った。その後、実際に子ども食堂を訪問し、支援金を届けるなどの支援活動を行った。

11 岡山北組

フードバンク活動を通じた子ども支援

地域のフードバンク団体「オレンジハート」の代表を招き、フードバンクの活動内容や子ども支援の現状について学ぶ講演会を開催した。講演では、子どもたちを支える活動の実際や寺院としてどのような関わりが可能かについて話を聞き、組内寺院での理解を深めた。また、寺院への募金呼びかけとあわせてフードバンクの活用についても呼びかけを行った。

(※今後、報告があった組は順次追加)

教区における取り組みの特徴

①研修型

組研修会や学習会を通して、実践運動の理解を深める取り組み。
組内寺院の情報共有や学びの場として多くの組で実施されている。

②社会課題型

平和学習や子ども支援など、社会課題に向き合う活動。
門信徒とともに学ぶ機会を設けることで、地域社会との関わりを深めている。

③組連携型

組内寺院の連絡体制の整備や情報共有など、組の連携強化を図る取り組み。
LINE などのツールを活用しながら組活動の活性化を進めている。

今後について

各組においては、それぞれの地域事情や課題を踏まえながら、今後も重点プロジェクトの取り組みが進められることが期待されます。

本資料が、各組における今後の活動の参考となり、教区全体の実践運動の推進につながることを願っています。

2025年度「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)人権啓発推進研修会 実施一覧

No.	組名	寺数	僧侶・寺族部門										一般部門									
			期日	会場	講師名	人数	助成額	立案	宗派報告	交付日	期日	会場	講師名	人数	助成額	立案	交付日	助成額合計				
1	阪神東	25	12/12	法専寺	郭辰雄	20	35,000	634	1/13	1/13	7/19	安養寺	近藤龍樹	30	30,000	360	8/28	65,000				
2	阪神南	23									6/17	瑛光寺	嶋津弘隆	9	30,000	276	7/23	30,000				
3	阪神西	21	3/9	西福寺	近藤龍樹	11	35,000	756	3/20	3/20								35,000				
4	阪神北	21	12/5	東照寺 東照寺(山内)	杉本光俊	22	35,000	621	1/13	1/13								35,000				
5	神戸東	30									3/2	西方寺	藤丸智雄	41	30,000	734	3/10	30,000				
6	神戸中	27	9/26	神戸別院	近藤龍樹	13	35,000	519	12/1	12/1								35,000				
7	神戸湊	21																				
8	神戸西	26																				
9	北摂	20																				
10	神明	22	1/24	カトリック カトリック	赤井智顕	51	35,000	757	3/20	3/20								35,000				
11	淡路	9																				
12	播磨東	15																				
13	播磨中	21	6/25	西念寺	尺一順大	20	35,000	235	7/17	7/18	11/2	光福寺	藤井大顕	127	30,000	527	12/1	65,000				
14	多可	10																				
15	加古川	28	9/27	宣能寺	藤朶義文	20	35,000	477	10/20	10/20	7/9	花洲院 水足店 龍泉寺中央公衆館	大西宝雲 深親亮介	72 116	30,000 -	317 -	8/8 -	65,000 -				
16	高砂	19	2/14	生石研修センター	近藤龍樹	21	35,000	717	3/5	3/5	6/27	生石研修センター	岩谷教授	31	30,000	291	7/30	65,000				
17	神崎	20	12/25	圓照寺	藤朶義文	20	35,000	618	1/13	1/13	10/26	教願寺	藤朶義文	42	30,000	617	1/13	65,000				
18	神姫	13	2/7	正光	竹内俊之	16	35,000	692	2/18	2/18	9/6	常徳寺	霜尾史澄	28	30,000	605	12/23	65,000				
19	姫路東	16									5/17	正覚寺	井上浩義	18	30,000	236	7/18	30,000				
20	姫路南	16																				
21	姫路中	21	1/27	正龍寺	藤丸智雄	17	35,000	671	2/16	2/16	2/22	真行寺	軌保真澄	19	30,000	709	3/5	65,000				
22	姫路西	23									7/17	本誓寺	遠山信証	24	30,000	357	8/26	30,000				
23	網干	24	2/17	圓勝寺	杉本光俊	15	35,000	764	3/20	3/20	9/16	圓通寺	藤丸智雄	15	30,000	476	10/20	65,000				
24	揖龍東	19																				
25	揖龍西	26	2/18	専龍寺	津島威彦	11	35,000	746	3/12	3/12	2/18	専龍寺	津島威彦	31	30,000	745	3/12	65,000				
26	新宮	14	11/1	龍泉寺 龍泉寺(山内)	福田高明	7	35,000	576	12/9	12/9	10/28	西勝寺	棚原正智	13	30,000	536	12/1	65,000				
27	赤穂南	13																				
28	赤穂北	21									3/2	法林寺	森村森凰	32	30,000	729	3/5	30,000				
29	宍粟	20	10/29	教専寺	大西宝雲	23	35,000	530	12/1	12/1								35,000				
30	佐用	15	12/13	佐用町西山公衆館	高嶋正英	13	35,000	764	3/20	3/20	8/19	龍泉寺 龍泉寺(山内)	竹内俊之	59	30,000	711	3/5	65,000				
31	多紀	23																				
32	水上東	17	7/29	魚幸	棚原正智	13	35,000	330	8/21	8/21								35,000				
33	水上西	18	12/20	花菱	澤田知寿	9	35,000	615	1/13	1/13								35,000				
34	朝来	16									5/24	如来寺	近藤龍樹	48	30,000	264	7/22	30,000				
35	養父	15																				
36	出石	18	7/26	福成寺	宇仁菅真志	55	30,000	409	9/24	9/24	12/7	西宗寺	朝倉慎也	39	30,000	600	12/17	65,000				
37	城崎	21																				
38	岡山南	19	2/18	源照寺	御手洗 隆明	8	35,000	708	3/5	3/5								35,000				
39	岡山北	14	10/10	大法寺	竹内俊之	10	35,000	512	12/1	12/1								35,000				
	合計	760	開催組	22		395	735,000					19	参加延べ数	794	540,000			1,275,000				

2025（令和7）年度 各組子ども・若者ご縁づくり開催状況

No.	組	開催日時	参加寺別	会場	参加人数	テーマ	特記事項
1	岡山北	7月19日	5	妙願寺	41名 (子ども13名)	戦後80年を迎えて	お寺での勉強会に併せてモルック体験、被曝体験伝承講話を実施。子どもたちだけでなく、地域の大人たちも多く参加していた。戦後80年を迎えるにあたり、次世代へ戦争の歴史を伝えることができて良かった。また、昼食ではNP0法人へ依頼してカレーを提供してもらった。
2	網干	7月25日（金） ～26日（土）	23	政源寺	61名 (子ども40名)	網干組サマースクール	組のサマースクールとして、1泊2日にて開催。猛暑にも関わらず多くの子どもたちが参加して。また、スタッフについても、若手からベテランまで多くのスタッフが関わっており、2日間子どもたちにとっては忘れ難い思い出となった。
3	六栗	7/28～30	20	願壽寺	66名 (子ども36名)	いのちのかかやき	組のサマースクールとして開催しており、今年で30回目の開催となった。子どもはもちろんだが、スタッフとしての参加者も非常に多い。日程については2泊3日で開催し、プログラムについても子どもも楽しめるように細部にわたり工夫している。
4	阪神東	7月30日	16	いたみホール	48名 (子ども17名)	なし	今年で20回目の開催。お楽しみタイムとして「学研」のスタッフによる科学実験や工作体験を実施。子どもたちと一緒にやってスタッフも楽しんでいる様子が見える。
5	播磨中	8月2日	21	光尊寺	56名 (子ども20名)	すべての人たちの居場所	組のキッズサンガとして開催し、今年で11回目の開催となった。猛暑の中での開催となったが、熱中症対策などを十分に考慮したうえで開催している。内容については、出店なども出店しており、子ども達にとっても思い出しに残る催しとなった。
6	氷上東	8月22日	1	照蓮寺	62名 (こども23名)	お寺に集まれこどもたち	参加された方の家族が夏の恒例行事としており、三世代で参加。今回の日程で参加できなかった寺院では、個別にお寺で行事を企画するなどしている。また、スタッフには中高生が参画するなど若い力が大いに活躍している。内容については、夜店や花火をするなど夏休みならではの内容となっている。
7	神戸西	8月26日	11	現光寺	220名 (子ども120名)	お寺も全力投球！	大変多くの子どもが参加している。スタッフにも総代を始め大阪からもボランティアとして参加しており、大いに盛り上がるイベントとなっている。また、工作（クラフト）では、夏休みの自由研究として作成した子どもも多く、内容も思考を凝らしたものが多く、大成功の集いとなった。
8	姫路中	8月30日	8	光源寺	52名 (子ども17名)	感謝	組のキッズサンガとして開催。参加者には若い親世代も多く参加している。開催に当たっては、うどん作りを行い、作ったうどんを昼食として提供している。午後からは、ピンゴ大会を行い、参加した子ども達も終始、楽しく過ごしていた。
9	神戸東	9月7日	15	寶林寺	76名 (子ども49名)	夏の終わりの流しそめん大会	組のキッズサンガとして開催。夏休みも終わった9月に流しそめん大会を開催。開催にあたり多くの寺院が協力しており、子どもたちの参加も非常に多い。課題点として、暑さが厳しいので時期については、今後検討の必要あり。
10	加古川	(第1回) 9月14日 (第2回) 3月8日	4	普光寺 教泉寺	54名 (子ども31名)	加古川組キッズサンガ	2回に分けて開催。初めての参加者もいたが、時間が経つにつれて他の参加者とも打ち解けている感じだった。第1回目の開催についてはマジックショー、第2回目の開催については花まつりをメインとして実施している。次年度以降も継続して開催予定。
11	朝来	10月26日	3	唯念寺	23名 (子ども10名)	みんなで報恩講！	組の報恩講の行事として開催。さつまいも掘りを実施。いも掘り実施にあたり、ゲーム感覚で楽しく出来るように、重さをピットリ100グラム当てるゲームなどをしたり工夫を凝らして実施している。
12	姫路西	12月21日	16	勝久寺	93名 (子ども44名)	子ども報恩講	組の子ども報恩講として開催。開催にあたっては多くのスタッフが関わっており、クラフト体験などを中心に実施している。集いの最後には寺婦の皆さんによるクレープ作りが行われ、終始笑顔の絶えない集いとなっている。
13	姫路南	10/20～3/15	16	全寺院	76名 (子ども50名)	姫路南組キッズガチャ	組内全寺院にガチャガチャを設置し、報恩講や除夜会などの法要に併せてウォークラリー形式で自由にガチャガチャを楽しんでもらう形式で実施。今後も継続して親・祖父母世代参加していただき、ご縁づくり事業の活動に繋げることを目標としている。

2025(令和7)年度 組重点プロジェクト推進助成金交付要項

1. 趣 旨 「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)推進の一環として、組における重点プロジェクトの推進に資するため、各組が策定した実践目標の達成に向け活動を実施した組に対して助成金を交付するもの。
2. 活動内容 各組の重点プロジェクトに基づく取り組み
 - ・各組で策定した実践目標の達成に向けた活動を企画、立案し実施する。
 - ・活動後、明らかになった課題や成果を確認し、次回以降の活動内容に反映する。
 - ・各組での活動を原則とするが、2組合同・3組以上合同で活動することもできる。
3. 対象期間 2025(令和7)年4月1日～2026(令和8)年3月31日まで
4. 助成金 1組あたり20,000円を交付する。(1年度1回の交付)
但し、3組以上合同実施の場合は、50,000円を限度とする。
5. 事務手続 (1)組における事務
 - ・活動後に教務所へ「実施報告書<様式③>」を提出する。(合同実施の場合にも各組より提出)
 - ※報告書は、概ね、活動後1カ月以内の提出を目処とし、2026年3月31日までに教務所へ提出する。(2)教区における事務
 - ・組より提出の「実施報告書<様式③>」を精査し、月毎に取りまとめのうえ、所定の申請書式「助成金交付申請書<様式①>」・「実施報告一覧<様式②>」により、毎月、統合企画室に交付申請を行う。
 - ※2026(令和8)年3月取りまとめ分については、2026(令和8)年4月3日(金・必着)までに申請する。
 - ・教区からの交付申請に基づき、統合企画室より月毎に教区宛助成金を交付する。
6. 備 考
 - ・教区においては、「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会等で、本要項の周知及び活動内容の情報交換や連絡調整を行う。
 - ・本年度より、教区を通じて各組から提出された「実施報告書」については、統合企画室にて集約(PDF化)のうえ、ガルーンにて各教区教務所等に対して情報共有を行う。また、必要に応じて、実践事例として宗派公式WEBサイト等で発信する。
 - ・各組において、活動事例を参考としながら、宗門全体の活動がより充実したものとなるよう進める。
7. 添付書類 (1)「助成金交付申請書」<様式①>
(2)「実践報告一覧」<様式②>
(3)「実施報告書」<様式③> 以上

組 重点プロジェクト 実施報告書

参画寺院数	組内	カ寺中	カ寺		門信徒	()名
実践目標				参画者内訳	僧侶	()名
					寺族	()名
					その他	()名

活動内容
 <実践目標達成に向けて取り組んだ内容を詳細にご記入ください。> ※参考資料があれば添付ください。

活動後の成果<「目標に対する達成状況」、「改善策」、「次回以降の計画」を順に記入ください。>

「目標に対する達成状況」

「改善策」

「次回以降の計画」

その他、特記事項等

上記の通り報告いたします。

_____ 組組長 _____ 印 _____

※本報告書は、概ね、活動後1カ月以内の提出を目処とし、2026(令和8)年3月31日までに提出ください。

<様式③>

2026(令和8)年度 兵庫教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)

人権啓発推進研修会【一般部門】同朋講座 開催要項

1. 目的

門信徒一人ひとりが差別の現実に向き合い、差別をなくす取り組みに主体的に参画し、「御同朋の社会」をめざすことを目的とする。

2. 名称

()組 「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 人権啓発推進研修会【一般部門】同朋講座

3. 主催

兵庫教区および実践運動組委員会

※具体的な実施運営は開催組が担当する。

4. 研修課題

テーマ:「差別の現実学ぶ」

下記より選定するか、または組において独自に設定する。

(1) 宗門課題

- ・宗門におけるジェンダー平等推進について
- ・過去帳又はこれに類する帳簿の取扱いについて
- ・み教えと差別の現実について

(2) 社会課題

- ・部落差別
- ・民族差別
- ・障害者差別
- ・感染症・ハンセン病と差別
- ・性の多様性と人権
- ・災害と人権
- ・非戦・平和

(3) その他

- ・組が独自に設定する人権課題

5. 開催にあたっての基本方針

1. 研修会スタッフを構成し、課題・内容を十分に協議のうえ決定する。
2. 講演形式のみとせず、「話し合い法座」を中心とする。
3. 参加者への周知を徹底し、宗派・教区作成教材に基づき趣旨の共有を図る。

6. 対象

門徒総代、仏教婦人会・仏教壮年会・門徒推進員等教化団体会員、門信徒

7. 講師について

(1)兵庫教区研修講師を依頼する場合

- ・各組組長が推薦し、教務所長が委嘱した「兵庫教区研修講師」より選定
- ・組担当者が講師へ直接依頼し、内容・日程の打合せを行う

(2)同和教育振興会 講師派遣制度を利用する場合

派遣要綱に基づき申請すること

【派遣条件概要】

- ・年度内 原則1回
- ・開催2か月前までに申請
- ・講師指定不可

【申込方法】

- ① 同教育振興会へ連絡
- ② 別紙申請書《様式④》を教務所へ提出(PDF・FAX 可)
- ③ 講師決定後、組担当者が講師と直接打合せ

【連絡先】

一般財団法人 同和教育振興会
〒600-8229 京都市下京区油小路通七条上る米屋町 167
TEL:075-343-5047
FAX:075-342-2793
Mail:doubou.center@gmail.com

(3)上記以外の講師を依頼する場合

研修課題等の都合により上記以外の講師を選定する場合は、事前に教務所長の承認を得ること。

8. プログラム(標準例)

時間	内容	配役
15分	開会式(開式の言葉・勤行・組長挨拶)	司会・会所住職・組長
60分	問題提起	講師
40分	話し合い(班別討議)	座長・記録
5分	休憩	
30分	報告・全体協議・ふりかえり・まとめ	討議司会・講師
10分	閉会式	

※会場の都合で班別討議が困難な場合は、全体協議の時間を十分に確保すること。

※必ず「ふりかえり」の時間を設けること。

9. 開催報告

開催後1か月以内に開催報告書を教務所へ提出。

(写真または資料を添付・PDF メール提出可)

報告先:jissenn.modan@gmail.com

※3月開催分は助成手続きの都合上、速やかに提出。

10. 開催助成

開催報告書の提出をもって、教区より3万円を助成する。

11. 研修資料

親鸞さまと歩む道「とも同朋にもねんごろに」

(近畿同朋運動推進協議会作成)

12. 問い合わせ

兵庫教区教務所

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)担当

TEL:078-341-5949

Mail:jissenn.modan@gmail.com

2026(令和8)年度 兵庫教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)

人権啓発推進研修会【一般部門】同朋講座

〔開催報告書〕

①組名： _____ 組 ②開催期日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

③会場： _____ ④参加人数： _____ 人

⑤参加者：門信徒 _____ 人 僧侶 _____ 人 その他 _____ 人

⑥研修課題： _____

⑦講師： _____

⑧研修日程

時間	内容

⑨研修の概略 (問題提起の要点、討議内容の概要)

⑩研修をふりかえって (参加者からの意見、成果、課題、今後の展望)

報告日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 報告者氏名： _____ 寺 _____

【提出について】

- ・開催後1か月以内に提出
- ・写真または資料を添付(データ可)
- ・3月開催分は速やかに提出

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)

人権啓発推進僧侶研修会講師派遣要綱

1. 【目的】

宗派の開催要項に基づき、御同朋の社会をめざして、ともに実践運動をすすめる

2. 【研修課題】

- (1) 宗門におけるジェンダー平等推進について
- (2) 過去帳又はこれに類する帳簿の取扱いについて
- (3) み教えと差別の現実について
- (4) 教区又は組が独自に設定する差別・人権問題について

3. 【派遣費用】

- 会場までの交通費については当会にて負担
- 講師謝礼・宿泊費(交通機関の都合上、又は研修会日程上、宿泊費が必要な場合)については主催者側負担
- ※原則、当日出発・当日帰着可能な講師を選任いたします

4. 【派遣先】

- 教区・組に出講いたします。人権啓発推進僧侶研修会にご利用ください。
なお原則、各箇所、年度内1回のご依頼とさせていただきます。

5. 【申込方法】

- 一般財団法人同和教育振興会へご連絡ください。折り返し当会よりご連絡させていただきます。
- 申請書は、教区を通して提出頂き、お申し込みとさせていただきます。(FAX 可)
講師の指定はできかねますので、ご了承ください。
- 講師決定後、ご担当者様にご連絡いたします。ご担当者から講師に直接ご連絡頂き、内容・日程の確認をお願いいたします。

6. 【その他】

- 予算の都合上、ご依頼を頂いた時点で、交通費の負担が無理な場合には、講師のみの推薦をさせていただきますことをご了承ください。
- 研修会開催の2カ月前までにお申し込みされない場合は、講師を紹介出来ない可能性があります。
- なお事情により、研修会が中止・変更となる場合、至急に講師、また当会へのご連絡をお願いいたします。
- 開催後1カ月以内に下記まで「報告書《様式⑤》」を必ずご提出ください。

〒600-8229 京都市下京区油小路通七条上る米屋町167番地
本願寺同朋センター内 TEL:075-343-5047 FAX :075-342-2793
Gmail:doubou.center@gmail.com

《様式④》

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)
人権啓発推進僧侶研修会講師派遣申請書

○ 研修課題(いずれかに○をご記入ください)

- (1) 宗門におけるジェンダー平等推進について
- (2) 過去帳又はこれに類する帳簿の取扱いについて
- (3) み教えと差別の現実について
- (4) 教区又は組が独自に設定する差別・人権問題について

○ 開催日時(候補日:数案お聞かせください)

① 月 日() : ~ :	② 月 日() : ~ :	③ 月 日() : ~ :	④ 月 日() : ~ :
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

フリガナ

○ 開催場所 _____ (_____ 教区 _____ 組)

【住所】

【電話番号】

【最寄り駅】

線

駅

○ 研修会名

○ 対象者

○ 参加人数(概算)

_____ 名程度

フリガナ

申込み団体(_____ 教区 _____ 組)

フリガナ

代表者名前

印

連絡先(住所・寺号)	
ご担当者様名)	
電話番号)	FAX番号)
E-mail	年 月 日申し込み

以上、講師派遣の申し込みをいたします。

教務所確認 印 (個人印 可)	
--------------------	--

兵庫教区教務所発 第263号
2025（令和7）年 12月 10日

兵庫教区 各組組長 様

兵庫教区教務所長
西本 浩



「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）
兵庫教区委員会委員 提出書類のお願い

謹啓 慈光照護のもと、貴職におかれましては愈々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、標記委員の報告にあたり、下記の書類を取りまとめの上、ご提出くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 提出書類

- ・「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）兵庫教区委員会委員 就任承諾書
（就任者ご本人作成、組長署名・捺印のうえ提出）
- ・交通費算出明細書（就任者ご本人作成、捺印のうえ提出）

2. 提出方法

- ・上記書類を組長より兵庫教区教務所宛にご提出ください（FAX可）
- ・メールの場合は、PDF形式にて提出してください

3. 提出先・連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通 8-1-1
メール：jissenn.modan@gmail.com

4. 提出期限

2026年4月10日（金）

5. その他

- ・委員へのご案内や連絡はメールにて行います
メールでの連絡、添付ファイルの受信が可能な方をご報告ください
- ・ご不明な点がございましたら、上記連絡先までご連絡ください

以上

2026(令和8)年 月 日

兵庫教区教務所 所長
西本浩二殿

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 兵庫教区委員会委員 就任承諾書

【任期】2026(令和8)年4月1日~2028(令和10)年3月31日(2会計年度)

このたび、2026(令和8)年度・2027(令和9)年度「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)兵庫教区委員会委員に就任することを承諾します。

1. 所属寺 兵庫教区 組 寺 寺院番号 18 — —

2. 名前(自署) 法名 釋

3. 区分 住職 衆徒 寺族 門徒 ※該当するものに✓をお付けください

4. 性別 男性 女性 その他 無回答 ※該当するものに✓をお付けください

5. 資格(教区での現役職)

※記入例:宗務機関代表(組長会長)、学識経験者(子ども食堂等運営)、関係団体代表(教区門徒総代会代表)等

6. 住所 〒 —

7. 電話番号 携帯番号

8. メールアドレス(必須)

※はっきりと読みやすい字で記入してください(筆記体不可)

※会議・研修会の案内、連絡事項などをメールでご連絡いたします。添付ファイルの受信が可能なアドレスをご記入ください

9. 添付書類 交通費明細書

上記差し支えありませんので報告します

組 組長 印

以上

「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）兵庫教区委員会

委員名簿任期：2026（令和8）年4月1日～2028（令和10）年3月31日

No.	組	寺号	名前	役職	No.	組	寺号	名前	役職
1	阪神東組				26	阪神東組			
2	阪神南組				27	赤穂南組	永應寺	楠 仁	
3	阪神西組	光明寺	永野要真		28	赤穂北組			
4	阪神北組	寛正寺	松井明尚		29	穴粟組			
5	神戸東組	妙善寺	上田泰昭		30	佐用組	光福寺	近藤公瑞	
6	神戸中組				31	多紀組			
7	神戸湊組				32	氷上東組			
8	神戸西組				33	氷上西組	正福寺	森本光慈	
9	北摂組	寶泉寺	平原和貴		34	朝来組			
10	神明組				35	養父組	西念寺	砂原 恵	
11	淡路組	萬行寺	山本了誓		36	出石組			
12	播磨東組	専應寺	藤井晃正		37	城崎組	善教寺	朝倉 慎也	
13	播磨中組				38	岡山南組	源照寺	藤丸智雄	
14	多可組	光福寺	岩本直樹		39	岡山北組	順正寺	森 順正	
15	加古川組	正願寺	井上浩義		40				
16	高砂組				41				
17	神崎組	安楽寺	教山雅裕		42				
18	神姫組	光輪寺	棚原正智		43				
19	姫路東組				44				
20	姫路南組				45				
21	姫路中組	常稱寺	兒林健治		46				
22	姫路西組				47				
23	網干組	圓勝寺	福田高明		48				
24	揖龍東組	浄蓮寺	竹内俊之		49				
25	揖龍西組	西楽寺	尺一順大		50				

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 兵庫教区委員会 委員名簿

任期：2024(令和6)年4月1日～2026(令和8)年3月31日

No.	組	寺号	名前	役職	備考
1	阪神東組	最光寺	杉本照顕	副委員長	連研委員長
2	阪神南組	稱佛寺	吉本眞澄		
3	阪神西組	光明寺	永野要真		
4	阪神北組	覚正寺	末井明尚		
5	神戸東組	妙善寺	上田泰昭		
6	神戸中組	徳本寺	津守秀憲		
7	神戸湊組	宝球寺	鷺尾衛鳳	常任	組代表
8	神戸西組	教信寺	山本浩司		
9	北摂組	寛泉寺	平原和貴		
10	神明組	養勝寺	鷺坂 浩		
11	淡路組	萬行寺	山本了誓		
12	播磨東組	専應寺	藤井晃正		
13	播磨中組				
14	多可組	光福寺	岩本直樹		
15	加古川組	正願寺	井上浩義	常任	組代表
16	高砂組	西法寺	山本英信		
17	神崎組	安楽寺	教山雅裕		
18	神姫組	光輪寺	棚原正智	副委員長	
19	姫路東組	浄福寺	小松勝憲		
20	姫路南組	善正寺	横山正仁		
21	姫路中組	善教寺	結城亮子		
22	姫路西組	万丈寺	浅野界雄		
23	網干組	圓勝寺	福田高明		
24	揖龍東組	浄蓮寺	竹内俊之	委員長	
25	揖龍西組	源徳寺	窪田憲龍		

No.	組	寺号	名前	役職	備考
26	新宮組	専念寺	岸井正道		
27	赤穂南組	永應寺	楠 仁		
28	赤穂北組	浄福寺	織田 薫		
29	穴粟組	了円寺	前住 淳		
30	佐用組	光福寺	近藤公瑞		
31	多紀組	専福寺	足立定夫		
32	氷上東組	福照寺	古川大悟		
33	氷上西組	正福寺	森本光慈		
34	朝来組	教蓮寺	齊藤正信		
35	養父組	西念寺	砂原 惠	常任	組代表
36	出石組	本行寺	小田善雄		
37	城崎組	善教寺	朝倉慎也		
38	岡山南組	源照寺	藤丸智雄		
39	岡山北組	妙願寺	森 順正		
40	阪神西組	万徳寺	谷川正秀	常任	教区会議長
41	岡山南組	法親寺	吉田信哉	常任	組長会代表
42	朝来組	極楽寺	軌保眞澄	常任	布教団副団長
43	姫路中組	順正寺	前田正英	常任	門徒推進員連絡協議会会長
44	神崎組	浄光寺	高崎正英	常任	自死者追悼法要実行委員会会長
45	北摂組	元照寺	北本 誠		門徒総代会会長
46	多紀組	光明寺	野村幸男		仏教壮年会連盟理事長
47	揖龍東組	源徳寺	尾ノ井みゆき	常任	仏教婦人会連盟委員長
48	阪神北組	光圓寺	杉本笙子	常任	寺族婦人会連盟委員長
49	阪神南組	西法寺	岩田紘昭		少年連盟委員長